

観光立国の実現は地方(地域)から

課題と針路を語る

国内旅行増売へ、各社の取り組みは

オリ・パラ開催で需要創出期待もIT化、ウェブ化への対応急務

19年の旅行業界を回顧

出席者 藤本 尚

JTB社長 高橋 広行氏  
 KNT-CTホールディングス社長 米田 昭正氏  
 日本旅行社長 堀坂 明弘氏  
 東武トップツアーズ社長 坂巻 伸昭氏

司会=本社取締役編集長・森田淳



高橋氏

写は、特に団体旅行でかなり影響が出た。国が「ふっこう割」を導入したが、われわれは業界挙げて支援を行う必要がある。

日韓関係の悪化と香港デモは、アウトバウンド、インバウンド共に相違ない打撃となっている。早い解決を願っている。

米田 エポックメイキングな出来事が三つあった。一つは社内構造改革推進。近畿日本ツーリスト(KNT)とクラブツーリズム(CT)の親管理の統合や、後に話が

MICEが経済効果10連休で動き活発に

高橋

米田

—(司会) 改元、ラグビーワールドカップ(W杯)、多発する自然災害と、2019年もさまざまな出来事があった。まず、旅行業界全体と各社の振り返りを。

高橋 19年は「グローバルMICEの年」であった。大型の国際会議が続き、世界各国から多くの来賓を迎えての国家行事、そしてラグビーW杯は大いに盛り上がり、国あるいは業界にとっても経済効果が多かった。

消費税の増税は、私どもとしては、まだプラスともマイナスとも言えない。増税前の駆け込み需要はあまりなかったし、増税後の需要の冷え込みは、自然災害。10月の台風19

出たところが、協定旅館ホテル連盟などの組織の一体化など、さまざまなことを進めている。

二つ目は6月のG20大阪サミット。われわれ近鉄グループが関西拠点として、いろいろお手伝いをさせていた。首脳陣の移動もお手伝いし、無事に終わって何よりと考えている。

堀坂 GWの10連休は、かなりの需要を取り込むことができた。今までは、国内は好調だが海外が今一つだった。19年は国内、海外ともに、旺盛な需要をリアルに実感できた。10連休を見据えてわれわれもかなり早くから仕掛けをしてきたし、社員が頑張った成果だと思う。

改元については、われわれ若い人も前向きに捉えており、旅行も含めて日本全体が盛り上がった。

ラグビーW杯では当社も海外のエージェントからのツアー

の受け入れや、観客輸送などのお手伝いをさせていた。ワールドマ스터ズツアー、大阪・関西万博と、関西では大きなイベントが今後開催される。われわれにとって良い経験となった。

19年はツーリズムEXPOジャパンが東京以外の大坂・関西で初めて開かれた。鉄道会社をはじめ、地元の財界がかなり力を入れて取り組み、今後に向けて関西のツーリズムを盛り上げていくという機運が高まった。西日本は前年の台風と豪雨で被災し、非常に苦しい思いをしたが、前向きな明るい光が差し込んできた。

消費税増税は、JR券で若干の駆け込み需要があったが、当社にとっても大きなプラスやマイナスの実感はない。国際観光旅客税の徴収開始も、MICEの状況は今のところ安定している。

19年も災害が多く発生した。被災地だけでなく、観光地に行くとキャンセルも被害を受けた。私も鉄道会社出身だけに、心を痛めている。

坂巻 19年を考えると、改元10連休、国際観光旅客税、消費税、自然災害と、いろいろなキーワードが出てくる。SDG's、SDG'sという言葉が響いた年といえるのではないかと。

国連サミットで示された2030年までの17の国際目標に旅行業としてどう取り組むかを、われわれは考えてきた。教育旅行の分野で、SDG'sと連動したプログラムを開発した。私立高校と共同開発した「グローバルスタディツアー」&キャリアプログラムで、学年ごとにも多くのプログラムを設定している。既にさまざまな学校からお声掛けをいただいている。



堀坂氏

米田 エポックメイキングなもう一つの出来事は改元。ゴールデンウィーク(GW)の10連休が需要を取り込む上で大きかった。弊社もさまざまな令和からのツアーを出し、注目を集めた。

米田 エポックメイキングなもう一つの出来事は改元。ゴールデンウィーク(GW)の10連休が需要を取り込む上で大きかった。弊社もさまざまな令和からのツアーを出し、注目を集めた。



謹賀新年

